

氏名	櫻井育穂	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	小児看護学、思春期看護学				
学位	修士（看護学）				
学歴	1997年北里大学看護学部看護学科卒業、2007年北里大学大学院看護学研究科博士前期課程修了				
経歴	2013年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師 2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本小児看護学会（診療報酬検討委員会委員）、日本小児がん看護学会、日本思春期学会、日本小児保健協会				

【2021年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	【成人移行支援の二面性】患者と家族を中心とした自立支援 移行準備に向けた患者教育、移行プログラムについて	単著	なし	小児内科 53巻8号 Page1203-1207	櫻井育穂	2021.08
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	入院中の子どものセルフケア能力・親のケア能力を高める看護尺度の開発	共著	あり		日本小児看護学会誌	長谷美智子、櫻井育穂、他
2	小児期発症の慢性疾患をもつ思春期・若年成人期にある患者への移行支援について～医療者にむけた患者主体の教育プロ	単著	なし		BIO Clinica37巻3号 Page282-287	櫻井育穂
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	科学研究費助成事業 基盤研究（C）			小児慢性疾患患者の成人移行期支援における患者家族中心の教育プログラムの開発・評価	研究代表者	2019.4～2023.3
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	小児看護学Ⅱ		1コマ	先天性心疾患をもつ子どもと家族への看護について、理論やガイドライン、学術論文等を参考に講義を行い、看護国家試験における状況設定問題への対策として、上記疾患の病態生理・治療・看護について事例を用いた。		
2	看護倫理（大学院）		2コマ	6名受講。担当者として小児看護における倫理的課題（IC,代理意思決定、プレパレーション）について、文献および研究等を用いて講義した。また、学生の学習内容及び実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。		
3	地域ケア支援論（大学院）		2コマ	6名受講。地域における子どもの発達・生活・健康、家族、地域の在宅生活を支援する社会資源の状況について、最新の研究および文献等を用いて講義した。特に重症心身障害や慢性病をもち医療的ケアを必要とする子どもと家族への看護について、学生の学習内容及び実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学Ⅲ	○	16コマ	学内実習を伴うPBLチュートリアルの学習方法を用い、学生が自主的に学習できるよう、科目責任者として円滑化を図り、且つチューターとしての役割を果たした。シミュレーションを通し、事例のイメージ化を図り、事例シートは実習等で活用できるよう、小児看護に特徴的な疾患3事例をより臨床に即したデータや病状を用い作成した。
2	子どもの保健	○	16コマ	講義形式による知識・役割理解を促し、その後演習を実施。演習シートを作成し、技術演習の方法に加え、ケアの根拠や臨床上のポイントを記し学生の評価を得た。
3	小児看護学Ⅳ		15コマ	事例に即した、小児看護学特有の看護技術についてロールプレイ等を用いて指導し、実践における根拠を検討できるようファシリテートした。また、技術テストを実施することで安全への意識を高めた。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	小児看護学実習		2021.9.10～12	1グループ2週間実習を4クール実施。子どもの権利を理解し、対象を理解し統合的に捉え看護の必要性和方向性を考え、実践・評価できるよう、1クール中にカンファレンス(毎日)・看護記録の助言(毎日)・個別面接(2回)実施。さらに、医師からの臨床講義を調整し、学生の疾患の理解を深めた。また、子どもの安全・安楽を守る事ができるよう臨床指導者との連携のもと付き添うことで、事故なく実習を終え成果を上げた。
2	総合実習		2021.4～8	自分の課題や技術力と対峙し、課題を探索できるよう、ゼミを行い実習計画書を作成。その後3病棟(各病棟4～5名)で、実習を行った。実習中はカンファレンス・看護記録・個別面接を実施。また、安全・安楽に対象者へ看護介入できるよう担当教員への助言や臨床指導者と連携し、成果を上げた。さらには最終報告会を実施し、学生の小児看護に対する理解を深めることができた。
3	IPW実習	○	2021.4～10	メイン科目責任者として円滑な実習運営のため、準備・オリエンテーションを実施し、学生及び担当教員のサポートを行った。また、施設担当者と連携し、演習が円滑に行えるよう助言し、実習中は学生の面談等を実施した。最終発表会では施設の指導者からも良い評価を得た。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2021.4～2022.3	主指導	4名 副指導 名
2	修士論文	2020.4～2022.3	主指導(指導教員)	名 副指導(指導補助教員) 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	就職支援	2021.4～2022.3	就職支援プロジェクトとして、看護学科4年次生・4年次編入生に対して、県内就職支援として、面接練習や履歴書の添削を実施。	
2	学生への就職相談・調整	2021.4～2022.3	卒研・総合実習等を通して学生の就職相談や調整を実施した。	
3	担任学生への進路相談・指導	2021.4～2022.3	担任学生への年2回の面談と、個別学生への面談等を通して学生の進路相談や指導を実施した。就職活動への個別面談、推薦書の作成を行った。	
4	大学院生への学習・実習相談	2021.4～2022.3	大学院生の学習方法や実習内容に関する助言、研究や学習方法に関する助言・相談等を行った。	
5	卒業生へのキャリアアップ相談	2021.8、10	卒業生へのキャリア形成について相談および助言を行った。	

6	埼玉県立小児医療センター看護研究指導	2021.4～現在	臨床看護師の看護研究について相談および助言を行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	オレムワークショップ（看護過程研修会）及びオレム推進連絡会	埼玉県立小児医療センター	看護過程研修会および事例検討会にて、オレム理論に基づく実践に関するファシリテート（年3回）	2021.6～2022.2
2	第31回日本小児看護学会学術集会におけるテーマセッション	日本小児看護学会	平成31年度の診療報酬改定に関するテーマセッション	2021.6
3	県民のための医療セミナー「子どもの病院から成人の病院へ～移行の必要性と準備について～」	埼玉県立小児医療センター	病気をもつ子どもが大人になるための移行支援について～必要なこと、準備すること～	2022.2
4	第3回思春期看護研究会	思春期看護研究会	成人移行期支援に関する講演会の企画・運営	2022.2
5	小児慢性特定疾病児童等移行期医療支援者養成研修事業でのe-learning講座	国立成育医療研究センター	小児科診療における自律・自立支援および患者教育	2022.3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	日本小児看護学会	診療報酬検討委員会	2020.4～2021.8	
2	日本小児看護学会	小児看護人材養成事業委員	2020.5～2022.3	
3	思春期看護研究会	事務局長及び総務会計	2020.4～現在	
4	日本小児科学会	移行期支援に関する提言作成ワーキンググループ委員	2020.4～現在	
5	日本小児リウマチ学会	メディカルスタッフ育成ワーキンググループ委員	2020.4～現在	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	埼玉県立小児医療センター	移行期支援テキスト（中学生向け・家族向け）HP資料作成・掲載	2020.3～現在
5. 学内運営				
	項目	内容	期間	
1	学科等における委員会等	4年学生担任	2021.4～2022.3	
2	学科等における委員会等	看護学科 カリキュラム運営検討委員	2021.4～2022.3	
3	学科等における委員会等	看護学科 就職支援プロジェクト	2021.4～2022.3	
3	学科等における委員会等	看護学科 総務委員	2021.4～2022.3	
4	全学的委員会及びセンター業務等	保健委員	2021.4～2022.3	
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			